

開講日	2011年春期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室B
コーディネーター	名古屋市立大学大学院・医学研究科 神経内科学教授 小鹿 幸生		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】高齢社会における有病率の多さと高齢者のQOLを考える時、脳血管障害、各種認知症、パーキンソン病とその類以疾患を正しく理解しない限り、もはや医療が成り立たなくなっている。これらの疾患は、成人が入院しているあらゆる病院、病棟で見かけ、医師のみならず看護師、理学療法士、介護士、薬剤師、栄養士など全ての医療従事者が避けて通ることが出来ない。この講座ではこれら疾患の病態生理、簡単な診断法、治療法、介護や患者さんとの付き合い方などを解説し、自信をもって医療に従事していただけるようにしたい
目標とする 資格	

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
高齢社会と 神経疾患総 論	1	高齢社会で起きる問題点と神経老化	高齢者社会では、医療に携わるあらゆる者は、神経系の加齢とそれに伴って起きる疾患の理解がなくては満足はいく医療サービスができない。	6月2日	教授 小鹿幸生 名古屋市立大学医学研究科 神経内科
脳血管障 害	2	虚血性脳血管障害鑑別診断	虚血性脳血管障害は、さまざまな病態から起き、発症後の経過や治療も異なる。病態に応じた適切な対処と予防の知識が重要である。	6月9日	副部長 山田健太郎 名古屋市立東部医療センター 神経内科
	3	虚血性脳血管障害の治療と予防	脳梗塞後遺症は、介護保険における“寝たきり”の最大の原因である。いかに脳梗塞を起こさないか、起こってしまったらどうすべきかを解説する。	6月16日	臨床准教授 湯浅浩之 公立陶生病院 神経内科
	4	脳血管障害のリハビリ	脳血管障害後の後遺症に対するリハビリテーションは重要であり、様々なアプローチが考案されている。PT・OT・STにおける、その応用法について解説する。	6月23日	教授 石井文康 日本福祉大学健康学部 リハビリテーション学科
	5	出血性脳血管障害	くも膜下出血、高血圧性脳出血およびアミロイド血管炎による脳出血の病態と外科的治療について解説します	6月30日	病院教授 間瀬光人 名古屋市立大学医学研究科 脳神経外科
	6	脳神経外科的治療;血管内	血管内治療とはカテーテルを用いて血管の中から行う治療のことで、身体に対する負担が少ないため高齢者に適した治療法です。脳卒中の血管内治療について解説します。	7月7日	病院教授 間瀬光人 名古屋市立大学医学研究科 脳神経外科
	認知症	7	認知症とは:鑑別診断	社会の高齢化とともに、認知症患者の増加が大きな問題となっている。認知症の定義、症候、原因、鑑別などについて概説する。	7月14日
8		アルツハイマー型認知症の治療薬物療法	現在本邦にて使用されているドネペジルに加えてメマンチン・ガランタミンおよび現在根本治療薬として世界共同開発中の抗体療法等について解説する	7月21日	准教授 松川則之 名古屋市立大学医学研究科 神経内科
9		アルツハイマー型認知症の非薬物治療	アルツハイマー型認知症の在宅看護やケアマネジメントや reality orientation therapy (ROT)、リハビリテーションなどを理論的に解説する。	7月28日	教授 小鹿幸生 名古屋市立大学医学研究科 神経内科
10		治療可能な認知症	正常圧水頭症、内分泌疾患、薬剤、神経梅毒などの中枢神経感染症、ビタミン欠乏症、脳腫瘍など代表的疾患について、自験例を踏まえて概説する	8月4日	臨床教授 片田栄一 名古屋市立西部医療センター 神経内科
パーキン ソン病	11	パーキンソン病とは:鑑別診断	中脳黒質、線条体のドーパミンシステムの概要と、パーキンソン病の病態について、パーキンソン症状を呈する他の疾患との違いを中心に解説する。	8月11日	助教 植木 美乃 名古屋市立大学医学研究科 神経内科
	12	早期パーキンソン病	日常生活に徐々に支障を来すようになる、早期パーキンソン病患者の様々な症状の特徴や経過につき、運動障害を中心に解説する。	8月25日	助教 大喜多賢治 名古屋市立大学医学研究科 神経内科
	13	進行期パーキンソン病	薬物療法があまり効かなくなったパーキンソン病患者さんに起きる運動障害、精神障害などの様々な症状と、これらの症状が起きる原因について考える。	9月1日	教授 小鹿幸生 名古屋市立大学医学研究科 神経内科
	14	治療法up to date	パーキンソン病治療の変遷、最新の薬物治療、外科的治療(脳深部刺激療法)、治療の将来展望について解説する。	9月8日	准教授 梅村 淳 名古屋市立大学医学研究科 脳神経外科
まとめ	15	高齢社会の神経疾患の要点	今回学んだ三大神経疾患の何れかが、高齢者全員に起きる可能性がある。医療に携わる全員が正しく理解していなければならない要点をまとめてみたい。	9月15日	教授 小鹿幸生 名古屋市立大学医学研究科 神経内科